旭川医大病院ニュース

（編集）旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長　廣　川　博　之
http://www.asahikawa-med.ac.jp/

年頭にあたって

～Change!! Yes, we can!!～

病院長　松　野　丈　夫

病院職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

病院長に就任して２度目のお正月を迎えることが出来ました。この間、絶え間なく多くのご助言やサポートをしていただいた職員の皆様に、まずは御礼申し上げます。昨年１年間における旭川医大病院で起きた主だった変化（変革）について、報告させていただきます。

１．入退院センターの設置

「入退院センターの設置」の意義は、患者様の身体的・社会的・精神的リスクを早期に把握し、入院から退院までの流れをスムーズにして、在院日数の短縮、病棟内における各種業務、特に病棟医長や看護師長が行っている入退院業務の軽減化にあります。早急にセンターの充実を図り、出来るだけ早い時期にセンターの業務を全病棟に広げるつもりです。

２．外来改革

メディカルクラークの配置を積極的に行ってきた結果、外来における医師・看護師の皆様の負担がある程度軽減し、本来の業務に専念出来る環境になってきたと思います。さらに本年は、所謂「１日で完結する外来」の実現を加速します。

３．救急体制

本病院ニュースが発刊される時には、道北地区へのドクターヘリの導入に対する結論が出ていると思います。その結果はともかくとして、本年度における病院内での救急医療の整備・充実は急務であると思います。この分野ではICUの増床、NICUの充実、当直体制の見直しなど早急に行わなければならない事項が山積しております。しかし、地域医療の崩壊が叫ばれ、その余波が旭川市内の病院にまで押し寄せつつある現在、旭川医大病院としては道北・道東地域の住民の皆様が最も大きな関心事である救急体制の確立をきっちりと行うことにより地域医療に貢献しなければならないと考えます。

４．福利厚生施設

今まで職員の方々の不満の一つでもあった、福利厚生施設（コンビニ、レストラン）の改革に向かって進んでいます。出来るだけ早い時期に新しいコンビニ、レストランを造りたいとは思っておりますが、多額の資金が必要なプロジェクトでありますので、現在十分な検討を行っているところです。

５．接遇に対する考え方の変革

「医療の充実より接遇が大事である」などと言う気はさらさらありませんが、病院の一部にいまだ残っている所謂「お役所的接遇」からの脱皮を図らなければならないと痛感しています。本年度における目標の一つとして、病院職員一丸となり、マニュアル化されたものではない「正しい、適切な接遇」に向かって頑張りましょう。

昨年末、米国ではバラク・オバマが次期大統領に選ばれました。彼のスローガンである“Change!!”と言う言葉は暗い世の中において何かしら「未来への希望」を感じさせてくれます。しかし振り返って見れば“Change（変革）”という言葉は吉田晃敏学長が学長就任以来掲げて来た言葉です。病院長としては、吉田学長のマニフェストの実現を目指し、“Change”の精神で病院の改革にあたってきたつもりです。病院職員の皆様が、この１年半で病院内において何かが（良い方向へ）変わったと感じていただけたなら幸甚です。オバマ氏のもう一つのスローガンに“Yes, we can”があります。本年度は、大学主導の変革以外に、個人あるいは部署レベルでの積極的な変革を、“Yes, we can”の精神で行ってほしいと思います。勿論、その実現のために大学・病院として十分なサポートをしていくつもりです。平成21年の年頭にあたり、新しい年が皆様方にとりましてご多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

ドクターヘリの試験運航について

９月22日（月）～９月28日（日）までの１週間ドクターヘリの試験運航を実施しました。

これは、昨年は本院の主催で行いましたが、今年は道北ドクターヘリ運航調整研究会の主催により、本学の野球場にドクターヘリを駐機させて実施しました。本院のほかに旭川赤十字病院、市立旭川病院の医師・看護師、各地の消防機関・医療機関が参加しました。

最初の２日間は模擬患者を想定した訓練でしたが、次の５日間はドクターヘリが必要とされる救急事案が発生した場合に、救急隊からの派遣要請を受け患者を搬送したもので、期間中４件の出動要請があり、そのうちの３件について出動し、ドクターヘリに対する道北地域の高いニーズを、改めて確認させられる結果となりました。

現在北海道には札幌（手稲渓仁会病院）を基地としたドクターヘリが１機配備されておりますが、新たに２機配備されることが決定されました。旭川市を中心とする道北地区にドクターヘリが導入される見込で、離島を含み広大な過疎地域を抱える道北地域への医療貢献は多大なものとなります。

（経営企画課）

西病棟時間外玄関前に階段を設置

病院長　松　野　丈　夫

以前に行った病院職員へのアンケートの中に、夜間に西病棟の時間外玄関を利用する夜勤者等から「是非西病棟時間外玄関前に階段を設置してほしい」との要望がありました。病院長が調査・検討を行ったところ、夜勤の看護師さんやファミリーハウスを利用する方々が夜間に西病棟時間外玄関前のスロープで転倒し、中には骨折をした方も数名いることが判明しました。

この度、これらの人々の利便性を図ると共に、特に冬期間の転倒防止、骨折予防に配慮し同スロープに階段を設置しました。階段は少し幅を広く段差は小さくし、緩やかな階段として上り下り出来るようにしました。また路面のアスファルト舗装は、雨がたまらないように排水性の舗装とし、階段に使用している丸太は、廃プラスチックを使用したエコマーク認定商品を使用しております。

まだ完全な形ではありませんが是非多くの職員の方々に利用していただきたいと思います。

病棟保育士の役割と活動

小児科学講座 保育士　神　保　侑　子

はじめまして。平成20年８月から病棟保育士として４階西病棟に勤務しております神保侑子です。

現在、特定機能病院である大学病院には、病棟保育士の配置は診療報酬が認められていません。しかし、入院中の子どもたちにも専門的な保育が必要という小児科学講座の先進的な考えに、病院も賛同してくださり、保育士にも活躍の場が与えられました。病棟保育士は、何らかの疾病により、生活および活動に制限のある入院中の子どもを対象とし、遊びを通し保育活動を行います。病状や成長発達に合わせた遊びを提供し、入院中であっても、活動意欲を高め、社会性と子どもが持つ創造性を育てることが役割です。

現在、日常の保育活動に加えて、ボランティアの方と協働し、季節に合った飾り付けや、季節ごとの行事を開催しています。これまでDVD鑑賞会、ハロウィンでの仮装大会やお買い物ごっこ、クリニクラウン訪問時には歓迎の旗作り、クリスマス会などを子どもたちと一緒に開催してきました。行事の日には、いつもと違う雰囲気の中、子どもも大人も日頃のストレスを吹き飛ばすかのような明るい笑い声と、笑顔があふれ、微笑ましい光景です。そしてその姿を、正面玄関の掲示板で多くの人に紹介しています。

今後の活動の予定は、子どもの疾患や治療、活動制限等の理解を深め、子どもと家族それぞれに合った遊びの提供。そして、治療を受けるための補助的な業務であるプリパレーションへの参加。看護師と協働して、患児の看護ケアに沿った保育ケアも実践していこうと考えています。日常生活により近い生活、育児環境を入院中も継続できるように、医療スタッフと協力して、今後も楽しく保育をしたいと思います。子どもたちの素晴らしい笑顔の力を頂きながら、皆さまのお役に立てるように頑張ります。

Fresh Voice

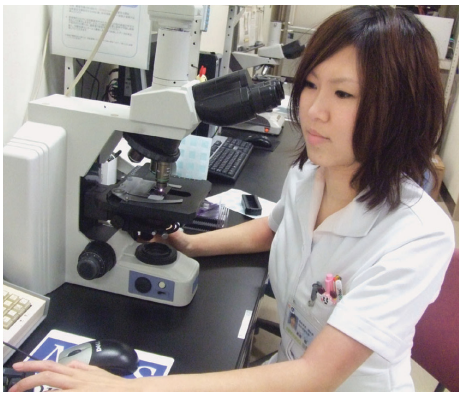
臨床検査技師として

臨床検査・輸血部
黒　瀬　　瞳

臨床検査技師として旭川医科大学病院で働き始めてから、早や９ヶ月が経ちました。

最近は氷点下の日が多く、旭川の冬の厳しさを実感しています。私が勤務する臨床検査・輸血部の皆様はとても温かく親身であり、毎日安心して働く事が出来ています。

臨床検査・輸血部では、血液、一般、生化学、免疫、細胞分析、微生物、生理機能、輸血部門に分かれて検査業務を行っています。私は現在、血液、一般検査に配属され、血液検査では血算や凝固検査の検査値をチェックし、血液像を鏡検し異常な細胞を探したり、一般検査では尿や便の定性試験や尿沈渣の鏡検を主に行っています。また、当直業務では血算、生化学、血液型、クロスマッチ等を一人で担当しています。私が担当している血液検査や尿検査の利点は、患者様への侵襲が比較的少ない検査であることです。だからこそ、ここでどんな小さな異常をも見逃さず突き止めることが私の使命だと考えています。小さな異常をもキャッチするためには確実な知識と技術が不可欠ですが、大学時代に学んだ知識だけでは実際の臨床検査の場ではもちろん足りず、自分の未熟さを痛感しています。したがって、「日々先輩方から多くのことを学びとり、日々勉強を重ね、しっかりと経験を積んで自分のものにする」ということを自分の最重要課題とし、毎日取り組んでいます。



また、徐々に日常業務にも慣れてきたので、大学病院という特色の一つでもある研究の方も意識して進めていきたいと思っています。勉強や研究を積み重ね深めていくことにより、その結果が一人でも多くの患者様を助けることにつながると、私は考えています。

このような機会に、臨床検査・輸血部の臨床検査技師が、患者様に少しでも貢献出来るよう毎日責任を持って検査を行っていることを少しでも知っていただければ幸いです。

12月19日(金)の午前中、サンタクロースに扮した病院長から小児科の子どもたちにクリスマスプレゼントが配られました。

最初はびっくりしていた子どもたちも、サンタに抱っこされたり、サンタのひげに触れたりするうちに緊張がほぐれ笑顔になり、病室は楽しい雰囲気に包まれました。

クリスマス コンサートの開催!!

12月21日（日）の午後、病院正面玄関ホールで、緑が丘中学校の吹奏楽部によるクリスマスコンサートが開かれました。

同中学校吹奏楽部は例年この時期になると、病気と懸命に闘っている患者さんの癒しを目的にコンサートを実施しており、今年も入院患者さんとその家族の方など大勢の観客が集まり盛況なコンサートになりました。

「崖の上のポニョ」など今年流行した曲や、患者さんにも馴染み深い曲が数多く演奏され、観客は熱心に耳を傾けていました。

（経営企画課）

【薬剤部】

新薬紹介（54）

マルチキナーゼ阻害剤

近年の分子生物学の進歩によって、腫瘍細胞増殖因子やサイトカインなどの特定分子が病気の発症・進行に関与する事が明らかとなりつつある。分子標的薬剤は、これら特定分子の機能を特異的に抑制することによって、病状の改善や進行の抑制を行う薬剤である。乳癌治療剤のトラスツズマブ（ハーセプチン®）が承認されて以降、分子標的薬剤の種類や機序が増加している。最近承認されたソラフェニブ（ネクサバール®）とスニチニブ（スーテント®）は、複数の受容体チロシンキナーゼを標的とする抗腫瘍剤である。

受容体チロシンキナーゼは、腫瘍細胞の増殖・維持に深く関与している。幹細胞因子受容体（KIT）や血小板由来増殖因子受容体（PDGFR）などの受容体チロシンキナーゼは、腫瘍細胞の悪性形質転換や細胞の増殖に関与する。また、PDGFRや血管内皮増殖因子受容体（VEGFR）などは、血管新生に主要な役割を担うことによって、腫瘍の維持に間接的に関与する。ソラフェニブとスニチニブはVEGFRやPDGFR、KITなど複数のキナーゼを阻害し、腫瘍の増殖抑制と血管新生阻害によって抗腫瘍効果を示す。なお、両薬剤は他の受容体型チロシンキナーゼの阻害による抗腫瘍作用も有するが、標的となる分子は異なっており、その違いが治療効果や副作用の発現率に影響を与える可能性がある。

現在のところ、ソラフェニブは「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」に、スニチニブは「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」と「イマチニブ抵抗性の消化管間質腫瘍」に対する適応が認められている。両薬剤共通の特徴的な副作用として、手足症候群などの皮膚疾患や高血圧が高頻度で認められる。この他にも下痢や疲労感など副作用は高頻度で発現しており、骨髄抑制など重篤度の高いものも多く認められている。また、使用経験が少ないことから、未知の副作用や耐性の発現にも留意する必要がある。

◆１　日　薬　価◆

ソラフェニブ（ネクサバール®）：21,740.80円

スニチニブ（スーテント®）：34,185.20円

（薬品情報室　田原克寿）

おかげさまで 輸血管理料Ⅰを取得できました。

2008年11月の診療報酬請求から輸血管理料Ⅰを請求できるようになりました。日頃から血液製剤の適正使用にご協力頂いている方々に感謝します。輸血管理料は輸血の安全性を確保できる院内体制整備と、血液製剤の適正使用が達成できた施設が算定できるものです。適正使用の達成基準としてFFP/MAP比（FFPの使用量をMAPの使用量で除した値）が0.8未満、ALB/RBC比（アルブミンの使用量(g)を３で除した数と赤血球の使用量の比）が２未満の両者を満たすことが必要です。FFP/RBC比は2007年から基準を満たしていましたが、この度ALB/RBC比がようやく基準に達しました。加算は輸血患者（アルブミンのみの使用も含む）１名あたり一月200点です。当院では年間1200名強の輸血患者がいるので、約240万円＋αの増収となります。この金額は病院収支から見るとさほど大きなものに見えません。2005年の輸血療法連絡協議会の資料では、当時のFFP/RBC比1.09を0.8まで低減できると年間約1000万円の支出を削減できると試算されています。すなわち、輸血管理料取得レベルにいたる数年間の支出削減額は数千万円と積算されることになります。さらに、DPC下ではFFPやアルブミンは通常の補液と同じ扱いで出来高算定ができないため、適正使用の推進により収支はさらに好転することになります。輸血管理料を取得すること自体が目的ではありませんが、無駄のない適切な血液製剤の使用継続をお願いします。

（臨床検査・輸血部　紀野修一）

永年勤続者表彰

平成20年度の本学永年勤続者表彰式が、11月25日(火)午前10時30分から第一会議室で行われました。

表彰式は、役員及び所属長の列席のもとに行われ、学長から被表彰者に対し表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

学長からの挨拶に引き続き、被表彰者を代表して佐藤とも子看護部副看護部長が謝辞を述べました。

なお、被表彰者は次の11名の方々です。

伊　藤　　亮　(寄生虫学講座)
稲　葉　雅　史　(外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野))
川　口　悦　子　(5階西ナース・ステーション)
佐　藤　とも子　(看護部)
白　幡　浩　美　(10階西ナース・ステーション)
大　保　貴　嗣　(生化学講座(機能分子科学分野))
高草木　　薫　(生理学講座(神経機能分野))
田　中　優美子　(医療支援課)
橋　本　眞　明　(生理学講座(自律機能分野))
廣　川　博　之　(経営企画部)
渡　邉　眞由美　(5階西ナース・ステーション)

(敬称略五十音順)

平成20年度　患者数等統計

(経営企画課)

区　分	外来患者数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数(一般病床)
	初　診	再　診	延患者数								
	人	人	人	人	%	%	人	人	%	%	日
7月	1,662	28,933	30,595	1,390.7	70.41	58.18	16,190	522.3	86.75	84.79	16.71
8月	1,505	26,574	28,079	1,337.1	70.24	58.14	16,231	523.6	86.97	84.69	16.32
9月	1,469	26,686	28,155	1,407.8	70.95	59.43	15,754	525.1	87.23	85.12	17.10
計	4,636	82,193	86,829	1,378.2	70.53	58.58	48,175	523.6	86.99	84.86	16.71
累計	9,420	162,837	172,257	1,378.1	70.71	59.17	94,524	516.5	85.80	85.57	16.66
同規模医科大学平均	9,567	119,415	128,982	1,034.0	86.19	54.97	94,807	518.1	85.29	85.04	18.05

編集後記

明けましておめでとうございます。

今は本年9月24日運用開始を目指しての「病院情報管理システム」構築のため職員一丸となって作業を行っていると思います。この先も、いろいろな段階で、皆で満足のゆくシステム作りのため十分な議論をして相互理解し患者様本位のシステムが完成しスムーズに稼働し、より良い評価を得る病院形成に努力したいですね。

昨年の色々な出来事の中で私にとって一番印象に残った事は、ニュースキャスターの筑紫哲也氏の死です。氏は私達の世代（50歳代後半）に大いに影響を与えてくれた人でした。(朝日ジャーナルの編集長、その後のテレビ番組「こちらディスク」・「ニュース23」のキャスター等）それゆえ一つの時代が終わったのだと痛切に感じました。氏曰く「小さなことに目を留め、心をかける」このことは医療の職場の中でも言えると思います。これからもこのような心構えで進みたいと思います。

(臨床検査・輸血部　山﨑　典美)

時事ニュース

News

10月2日(金)…病院避難訓練
10月17日(金)…大学間相互チェック
鳥取大学訪問
11月4日(土)～5日(日)…インフルエンザ
ワクチン接種
12月25日(木)…病院立入検査